

折々の記 No200:「NATO」の日本で良いのか！

(平成 24 年 10 月 12 日記)

(タイトルの説明は後段所載)

久々の「折々の記」である。ココフレンドが結構忙しくて余裕がなかった(?)訳ではなく、少々気乗りがしなかっただけなのかもしれない。この間、領土問題に関して状況が相当に進展したこともあり、領土問題に関連したテーマで「大手町ニュースカレッジ」(<http://www.newscollege.jp/>)で説明して欲しいとの依頼があり、さる 10 月 11 日夜産経新聞社本社会議室で説明した。

一時間の説明と 30 分の質疑応答であったが、聴衆が少なかつた割には有意義な会同であった。説明のレジюмеは以下の通りであり、説明内容は、本 HP を参照して頂きたい。

○レジюме

1 領土を巡る最近の動向

- (1) 竹島：大統領上陸、実効支配の状況,ICJ 提訴問題,APEC
- (2) 尖閣諸島：強化される中国の海洋覇権、侵犯・接続水域侵入事件、反日デモの拡大や国有化等日中の動き、領海警備体制強化
- (3) 北方領土：実効支配の強化、首相と大統領の役割分担？
- (4) 政府及び国会の状況

2 状況認識

- (1) 領土を巡る関係国：従来対応から圧力強化・実効支配強化・問題の顕在化等へ、日本の状況を見透かされ、仕掛けられた！
- (2) 若干の変化はみられるものの従来対応の延長線上⇒悔りを受けているのでは！状況と対応のミスマッチ、ナアナアでは済まない状況

3 対応策

(1) 基本的事項

- ①毅然・不退転等有言実行 ②国家としての覚悟 ③為すべき今為すべし
- ④世界を味方に⑤国民の強い支持 ⑥あらゆるオプションを排除せず準備
- ⑦先手、後の先 ⑧あらゆるパイプは維持シタフネゴシエート

(2) 共通的政策

- ア 国民啓蒙・国民運動の展開 イ 世界への発信
ウ 危機管理態勢の再構築 エ 国を守る気概を オ 国力の増大を

(3) 尖閣諸島

- ア 実効支配体制の整備を急げ
イ 領域警備態勢(海保法の改正による強化等、自衛隊への領域警備任務の付与)
ウ 南西諸島防衛態勢(強化整備すべき事項、オスプレイの配備は抑止)
エ 日米同盟の更なる深化 毀損した日米同盟から真の同盟へ
オ 中国の海洋活動の狙い等(1・2列島線)弧状の分断、対米戦略
カ 南シナ海の西沙・中沙・南沙諸島における中国の強引な実効支配の状況

明日は我が身か？

(4) 竹島

- ア 積極的に正当性を主張 イ 対日強硬策は逆効果を認知
- ウ 重要なパートナー→良識ある者への働き掛け エ 専任部署

(5) 北方領土

- ア 双方の共通認識を拡大 イ 現在までの交渉を土台に粘り強く
- ウ 日露双方に益ある方策を

4 終りに

- ①国家としての品位の保持と為すべきこと為すこととを両立
- ②今までのつけを清算
- ③領土・主権に対する再認識を
- ④異形の大国への対応

(大戦略を描け：日・米・(台)・ASEAN・印・豪連携)

○説明内容 小生の HP にリンク

<http://yamashita-teruo.my.coocan.jp/JBpress/otemachicollege.pdf>

さて、質疑応答では想いを同じくする方から色々な質問が出た。国民の啓蒙や教育或いは広報を具体的にどうするかが今後の課題であり、夫々がそれぞれの立場で行動することが重要であるとの認識を共有できたと考える。

日本は、「NATO」と言われている云々との発言があった。確かに日本は“N A T O”と揶揄される。N A T Oは、“N o a c t i o n T a l k o n l y”の意味である。口先だけの抗議だけではなく、実効性のある行動が必要である。摩擦を恐れず、一時的なリスクをも甘受する気迫を持って対応すべきである。

また、中国や韓国の心ある人々に如何に働きかけるかも今後の課題である。中国の3戦を日本も実行すべきであろう。